

平成28年度第1回鎌ヶ谷市史編さん審議会会議録（要約筆記）

- 1 開催日時 平成28年6月9日（木） 13:30～15:10
- 2 開催場所 鎌ヶ谷市立図書館3階 保育室
- 3 出席者 委員 下津谷達男委員、村田一二委員、横山謙次委員、
小出達雄委員
事務局 皆川教育長、三石文化・スポーツ課主幹、
手塚主事（兼）学芸員

- 4 議題 以下のとおり

※傍聴者なし

1 開会

2 会長・副会長選出

→鎌ヶ谷市史編さん審議会条例第4条に基づき委員の互選により、下津谷達男委員を会長、村田一二委員を副会長に選出した。

3 会長挨拶

4 教育長挨拶

会議録署名人の選出

→横山謙次委員、小出達雄委員を会議録署名人に選出した。

5 議事

(1)平成27年度市史編さん事業報告について

事務局より資料1・2に基づき説明。

→質疑なし 議事（1）承認。

(2)平成28年度市史編さん事業について

事務局より資料3・4に基づき説明。

質 疑

【村田委員】平成28年度総務予算について2種類の保険の違い。

市史編さん事業で購入した消耗品と郷土資料館の運営費用で購入した消耗品の線引きについて。

【手塚主事】傷害保険は事業団員が加入する任意保険、労働保険は事業団調査員が加入している法令に基づく強制保険。

市史編さん事業団の購入備品に付随する消耗品は事業団で購入。

【下津谷会長】『鎌ヶ谷のあゆみ』四訂版の文字や写真の大きさについて。

【手塚主事】フルカラー、ページあたりの面は拡大する。字の大きさは検討中。

【村田委員】表や図にも色を付けて見やすく、手に取りやすく親しみを持てるようになるよう要望。

議事(2)承認。

(3)市史編さん事業団提出の「市史編さん事業終了にあたって、今後の方策についての要望書」の経緯について

事務局より資料5に基づき説明、及び以下のとおり補足説明。

- ・今後、市史資料も含めた文化財の収蔵施設について将来的な検討をしている。
- ・市史編さん事業の終了後、市史編さん事業関係者の人材流出を防ぐため、任用について人事当局に要望した事等を説明

質 疑

【横山委員】市史編さん事業が終了すると、所蔵者は事業が終わったから処分してしまう場合がある。市史編さんで使用した資料については、散逸しないように所在調査を希望。

【下津谷会長】市史編さんに関連して預かった資料はどうしているのか。

【手塚主事】寄贈・寄託を受けたものは資料館で保管している。その他は整理後に返却している。横山委員が指摘する危機感については認識している。

【下津谷会長】所蔵者の代替わりによって考え方も変わってくることもある。

【手塚主事】所蔵者の資料は、私有財産であるため難しい面もある。現在のところは史料返却時に、不要だから返却しているわけではないこと、処分を考えた際には連絡してほしいということをそれぞれ伝えている。

【横山委員】郷土資料館の新築という話がかかり前に出たが、それがかなわなければ収蔵庫だけでもしっかりしたものを確保してほしい。

【手塚主事】これまでも埋蔵文化財・民俗文化財も含めて収蔵し、活用できる施設が

必要だということで検討をしているところである。

【小出委員】市の自然は生きている文化財と言える。文化・スポーツ課、あるいは環境課でこれらを見守っていく体制を作っていくことも重要と考える。

【手塚主事】自然の文化財についても市民の皆様に関心を持ってもらえるよう、郷土資料館の事業としても自然の講座などを実施している。

【村田委員】要望書に対する市の回答はこれが限度だとは思う。今後、何をどう盛り込んでもらうのか、実際に計画に入らないと市の予算は付かない。事務局は大変な努力が必要と思う。

【下津谷会長】前向きの回答書ではある。

【村田委員】『鎌ヶ谷市史』は昭和59年から計画的に進んできて、近隣の市町村に比べて見劣りしない。このことは役所内部でどう認識されているのか。

【三石主幹】内容等の評価は専門的な部分になるが、事業として継続して、計画的に成果を出しているという点では評価がされていると思われる。

【下津谷会長】ブックレットのような形であるものを出していく必要もある。

【手塚主事】認識は共有している。

→議事（3）承認。

6 その他

(1)平成27年度企画展・第16回ミニ展示・その他展示について

事務局より資料6・7に基づき説明を行った。

(2)平成28年度の郷土資料館の展示について

事務局より資料8に基づき説明を行った。

(3)その他

質疑

【小出委員】過去は企画展を三橋記念館で開催していたが、郷土資料館で開催すると郷土資料館まで来なくてはならない。市民会館の方が広いし、向こうの方がよいのではないか。

【手塚主事】三橋記念館が利用できなくなった際に様々な検討をした結果、今の形に落ちついている。委員指摘の問題点があるということは認識しており、それを緩和するために図書館での連携展示などの関連企画を実施している。

7 閉会

以上会議の経過を記載し、相違ないことを証する。

平成 28 年 9 月 30 日

署名人 横山 謙次

署名人 小出 達雄